

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492200371	事業の開始年月日	平成23年4月1日
		指定年月日	平成23年4月1日
法人名	社会福祉法人県央福祉会		
事業所名	ラ・プラージュ湘南		
所在地	(251-0037) 神奈川県藤沢市鵜沼海岸6-7-14		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成28年12月10日	評価結果 市町村受理日	平成29年5月18日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自宅、病院先、他の施設からと様々な環境からラ・プラージュ湘南にご入居したいとのご希望があることを大切に大事にしたいとの思いがあります。高齢になって人生最後に選んだ場所として安心して暮らせる「終の棲家」となるように努力しております。「看取り」に関しては、ご本人、ご家族から希望があり医療機関との連携が取れる状況であれば取り組んでおります。日々の生活では、入居者様が主体的に生活できるように工夫しています。その方が、大事にしてきた事や、価値観などを職員で共有し、いつまでもその人らしく生活が出来るように取り組んでいます。また、ホームの目の前に公園があるので、日常的にお散歩や外気浴を取り入れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成29年1月27日	評価機関 評価決定日	平成29年3月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR東海道線「藤沢駅」北口より江ノ電バス鵜沼車庫行き、バス停「藤原」より徒歩3分の住宅街にあります。近くには野球場や室内プールのある大きな運動公園があります。近隣の住宅に溶け込んだ瀟洒な2階建てで、踊り場では野球の試合の応援の声が聞こえ、利用者は元気をもらっています。事業所の名前の通り「砂浜」のある海岸までは2kmぐらいの近さで、江の島の花火大会も楽しんでいます。

<優れている点>

利用者の多くは地元で、毎日のように家族の訪問があり、利用者や職員と話し合っています。職員は家族も本人を支える一員としてとらえ、家族にもどんな支援や情報が必要か、常に考えて行動しています。地域のNPO法人と協力して「認知症カフェ」を開設し、高齢者の居場所、認知症に対する啓発、サポーター制度の研修などを推進しています。母体の法人は県内に多数の介護保険事業所を運営しており、職員の教育体制は充実しています。職員の専門性を高めるために外部研修を受講した職員は事業所で講師となり、他の職員と情報を共有しています。

<工夫点>

職員は日常の利用者に対する支援の中でお互いに小さな工夫を褒めあい、認め合う「ホメール」ノートを記録し、モチベーションを高めています。食事が楽しみなものとなるよう、職員は利用者との会話から食材を購入し、献立を立て、調理しています。毎週金曜日は刺身の日としたり、季節ごとの食事を楽しんでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ラ・プラージュ湘南
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設当初に、ラ・プラージュ湘南としての具体的な支援理念を作成し、職員の目の届くように可視化しています。新しい職員も増え、共有できていないことも考えられるので、現状にあった理念を考え、共有していきたいです。	法人の理念を分りやすく表現していません。事業所の目指すサービスの思いを込めた「利用者一人ひとりに優しく笑顔で接し、相手の心に寄添います」という基本理念を玄関やリビング、職員の休憩室に掲示しています。	理念は目指すサービスのあり方を示したものです。理念を日々具体化するためにも、朝礼での唱和やミーティングなどで職員に周知徹底することが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の一員として回覧板をまわしたりしています。日常的に散歩をしているので、近所の方に出会った際は挨拶をかわしています。	地域の一員として町内会に加入し、八部公園での鶴祭りに参加したり、回覧板の配布に協力しています。利用者も近隣の人が多く、毎日家族が事業所を訪問しています。目の前の公園に日常的に散歩し、地域の人々と交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症があっても地域で生活できるという事を知っていただくために、散歩や買い物を実践に行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度は奇数月に運営推進会議を行っています。運営推進委員からのアドバイスを実際にケアに活かしています。また、地区の行事などの情報交換の場としても活用しています。	年6回、生き生きサポートセンターや社会福祉協議会の職員、民生委員、自治会長、家族、利用者などが参加し、開催しています。事業所からは活動状況や今後の行事予定、避難訓練などを報告し、参加者から地域の行事予定や防災訓練などについて話し合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2ヶ月に一度、藤沢市のグループホーム連絡会を行っています。行政側にも参加していただき、連絡事項の確認や、他事業所の取組み等を参考にしています。	隔月開催のグループホーム連絡会には市の職員も参加し、情報や意見交換を行っています。市から委託された介護相談員が定期的に訪問し、利用者から施設での暮らしぶりを聞き、職員とも話し合っています。市主催の感染症の研修会には積極的に参加しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束にあたる、具体的な行為などをミーティング等で共有しています。玄関の施錠については、7月相模原の事件をうけて、ご家族からも戸締りをしたほうがいいのではと意見をいただき戸締りをさせていただいております。	法人の全職員を対象に毎年「不適切な行為に関するアンケート」を実施しています。身体拘束防止や接遇ケアについて自己評価を行い、日常の支援を振り返っています。不適切な場面があった場合は職員同士で注意し合ったり、所長が個別に周知に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修や、ミーティング等で虐待について学ぶ機会をつくっています。声掛け等、細かなところから日常的に気をつける組織風土をつくっていききたいです。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持てていなかったため、機会をつくっていききたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約または改定等の際は、利用者やご家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から入居者やご家族の希望・要望を聴くことを心がけています。ご家族の面会時などに積極的にコミュニケーションをはかり、運営に反映できるように努力しています。	運営推進会議には家族も参加し、運営に関する要望や改善などの意見交換しています。家族アンケートを実施して要望を把握し、運営に反映しています。毎月訪問する介護相談員は利用者や家族からサービス支援に対する要望を聞き、職員と話し合っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のフロアミーティングや、個人面談の際に意見や提案を聞く機会を設けています。その際に十分に検討して合意形成をはかってから、運営に反映するようにしています。	毎月のフロアミーティングでは利用者のモニタリングだけでなく職員から意見や提案などを出し合い、運営に反映しています。所長は年度初めに職員一人ひとりと目標や課題について話し合い、年度末にその成果を確認してモチベーションを高めるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	常勤に関しては、能力や実績を把握できるように人事考課制度が見直されています。また、年に1回職員の意向調査をおこない、各自が向上心を持って働けるように職場環境を整備しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内では個々の専門性を高める為の研修が定期的に行われています。事業所内でも、認知症やリスクマネジメントの研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内では、各事業所の管理者を対象に宿泊研修を行っています。魅力ある事業所作りを目指した、勉強会を行い交流を持つことで、横のつながりを大事にしています。また、藤沢市のグループホーム連絡会にて各事業所の悩み等を共有しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご家族及び関連医療機関等から利用者様のこれまでのご様子・嗜好・既往歴等の聞き取りを行い、スタッフ間で共有・事前に支援計画を作成しています。また、利用者様が入居された後には、積極的声掛けを行い、信頼関係を構築、利用者様の御意向や、潜在的な不安を払拭するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	上記活動を含めて、ご家族との定期的な面談を実施し、利用者様の普段生活の様子をお伝えすることで、初期段階で判らなかった問題点・ご家族・スタッフの気付きを話し合う機会を設け、状況によって変化のご家族の不安点困っていることの解決に向けて意見交換を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様のこれまでの病状の経緯や、ご家庭の様子・ご家族の御意向の聞き取りを徹底的に行い、必要とされる支援に優先順位を設定、まず、解決しなければならない点を明確にし、ご家族の同意を得た上で、当施設で出来る事、関連機関への支援要請を含め、広い視野でのサービス提供を心掛けて活動しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	サービスご利用者様とのコミュニケーションを第一と捉え、ご利用者様の”その時”に合わせ、語りかけ、関わり方を常に意識して、ご利用者様の尊厳を大切にし、共に生活する関係の維持が出来るよう、スタッフ全員で、意識の統一を計っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	サービスご利用者のご家族も、サービスご利用者同様、”共に生活する家族の一員”として考え、ご家族に対してもどんな支援が必要か・必要な情報は何か？を考え、併せてご家族からも安心して様々なご相談を発信して頂けるよう、事務的ではなく、家族的な関係構築をスタッフ全員で常に考えて行動しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の方々のこれまでの生活様式等をご家族・関係者の方からヒヤリングを行い、今迄の生活環境から施設内での生活が激変する事等が発生しないよう留意して支援を行っています。また、ご家族・お知り合いの方の施設へのご訪問の機会を作って頂けるよう、スタッフからも情報を発信しています。	入居時に利用者の人間関係や生活習慣などを把握しています。新聞の購読やくす玉の手作りなど今まで「やってきたこと」「やりたいこと」などを尊重し、持っている能力を発揮できるよう努めています。友人や家族との電話や手紙など、プライバシーに配慮しながら支援しています。家族や親族の協力で帰宅したり、馴染みの店に食事や買物に出かけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共有スペースでの利用者の方のご様子等をスタッフが注視し、適切なタイミングでの声掛け・簡単な家事を協働で行って頂く等、利用者の方々の良好な関係作りと維持を支援しています。また、利用者の方のパーソナルスペースを意識し過度の干渉等が発生した場合にも適切なタイミングでスタッフが介入し、個人のご気分を害さない様に、留意して支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も利用者であった方のご様子を含め、ご家族の状況等を伺う機会を設け、必要に応じて、過度な干渉にならない範囲での相談・支援を行えるよう良好な関係の継続・維持に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の方、ご家族・関係者の方々の御意向を傾聴し、スタッフ間で共有・分析を行い、最もご希望に沿った支援を行うように活動しています。また、意向の把握が困難な場合は安全面・健康面を最優先する形で、自由に利用者の方にお過ごし頂き、楽しく安心した施設内での生活を提供するように活動しています。	利用者がその人らしい生活ができるよう、本人や家族から思いを聞き取っています。日々の会話やレクリエーションの中での仕草・表情などから「できること」「したいこと」などを把握し、ケアに反映しています。居室担当者は衣替えなどタンスを整理する時などの会話から思いを把握し、サービスにつなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	前述の通り、利用者の方からヒヤリングが可能な場合は利用者の方のご意見を、また、利用者の方からヒヤリングが困難な場合はご家族を含めた関係者の方から、過去の生活環境のヒヤリングを行い、声掛け等の支援活動に反映させています。また、わずかでもヒントが有れば、スタッフ側からの問い掛けを行い、利用者の方のお話を傾聴する事をスタッフ間で意思付けを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人一人の体調や生活スタイルを考慮し、必要に応じて安静臥床や散歩、外気浴をお勧めし、出来る範囲で家事を行っていただく等、残存能力を発揮して頂く場を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングは毎月のミーティングの中でスタッフ全員で行っています。御家族や医療関係者からの意見等も出しながら、現状の課題や入居者ご本人の思いについてを考えています。そこから意見をまとめ、介護計画を作成しています。	利用者の体調や変化を記録した「介護経過・訪問看護記録表」などを基にして毎月ユニット会議で利用者一人ひとりのモニタリングをしています。本人や家族の意向を取り入れ、看護師や医師の助言を確認して6ヶ月ごとに介護計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録は入居者個々に24時間スケールで記入しております。ケアに対する結果、入居者の変化等を記録に細かく落とすことで職員間で情報を共有出来、気づきや課題が浮かんでくるため、介護計画の見直しに役立っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族や入居者ご本人から希望が出た場合には、なるべく希望に沿えるよう、ご家族とも相談を行いながらサービスを検討し、対応しております。今後もサービスの多機能化に努めて参ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	施設の向かいにある公園での散歩、地域にあるお店での買い物、近隣の畑でのお芋掘り等、地域の中で暮らしていることを実感して頂きながら、余暇活動を行っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族の希望される医師に主治医とさせて頂いております。入居者に体調変化等があった際には、24時間、提携先の訪問看護ステーションや主治医からの指示を仰ぐことが出来、必要に応じて往診して頂ける体制が出来ています。	本人や家族へ、4ヶ所の訪問医療機関の特徴を説明した上で、かかりつけ医を選んでもらっています。入居前からのかかりつけ医を利用する人もいます。内科月2回、看護師と歯科の毎週の訪問により、適切な医療が受けられる体制となっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	一週間に一度、定期訪問看護があり、入居者の一週間のご様子を伝え、指導や助言をもとに適切な支援を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居様が入院された場合、病院の担当医師や看護師と入院時の生活状況、退院後の支援方法等の情報共有に努めております。提携している医療機関とは関わりも多く、良好な関係が築けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化、終末期の兆しが窺える入居者に対しては、ご本人、ご家族の意向をお聞きした上で、主治医や訪問看護師とを交えながら今後の生活の在り方や支援方法について話し合い、チームケアを行ってまいります。	入居前に利用者や家族に対して看取りに対する指針を説明しています。必要な段階で医師から家族へ説明し、再度家族の意向を聞いて方針を決め、支援しています。職員へは入職時に看取りを行う旨を伝えており、支援する体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルを作成しており、緊急時の対応についてはスタッフに伝えております。応急手当や初期対応が冷静に行えるよう、ミーティング等で定期的な訓練を行い実践力を身につけるよう努めます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防設備の使用法や初期消火訓練を消防士の方から教えて頂くことも含め、火災、地震、水害等を想定した避難訓練を年に3～4回実施しております。近隣の施設が津波時の避難場所となっており、協力体制が築けています。	消防署の立ち合いを含め、年2回以上定期的な避難訓練を実施しています。そのうち1回は法人本部の危機管理に沿った法人合同防災訓練で、災害に対する備えをしています。	災害時には地域住民との協力体制の構築も大切です。地域の防災訓練参加や運営推進会議で定期的に話し合っていくことが期待されます。また、飲料水や備蓄品などの再確認を行うことも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声のトーンや目線に気を付けながら、尊敬の念を忘れない言葉かけを意識し、接しております。研修やミーティング等でも振り返る機会を作り、適切なコミュニケーションが取れるよう努めています。	職員は、利用者の思いを汲み取り、その人らしさを大切にして利用者が笑顔で楽しく過ごせるような支援を心掛けています。不適切な対応がないよう、ミーティングの場やチェックシートを用いて再確認するなどして、職員の意識を喚起しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	意思表示が出来る方には思いや希望をお聞きし、可能な限り入居者の気持ちに沿える支援を行っています。意思表示の難しい方にはいくつかの選択肢を設け、お返事や顔の表情、仕草で気持ちを汲み取り、対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の生活歴を常に頭に置きながら、その方の考え方、生活のペースに合わせて、入居者主体で過ごして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者にお好きな服を選んで頂いたり、難しい方にはご家族からの情報をもとにお好きな色の服やデザインのものをスタッフで選んでおります。適宜、整容、爪切りを行っています。また、2～3ヶ月に1回、ご希望に合わせて出張美容院によるカットやヘアカラーを行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しみなものとなるよう、食材も厳選し、バリエーションに富んだメニューで食事を提供するよう心掛けています。また、一人一人の好みや力を活かしながら入居者とスタッフが一緒に準備や食事、片付けをしています。	利用者との会話などから職員が献立を立てて調理しています。大晦日にはそば、正月にはおせちや雑煮など、季節や行事に合わせた食事や毎週金曜日は刺身の日とするなど、楽しみとなるように支援しています。おやつを利用者と作って楽しんだりしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の状態や力、習慣に応じて食べる量や栄養バランスを考えながら各自の嗜好も取り入れた食事を提供しています。また、食事や水分量が適切に摂取出来ているかをチェック表を用いて確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎回の食事後に毎に口腔ケア実施の声掛け・誘導を行っています。また、利用者の方のご気分で、口腔ケアを拒否された場合でも、タイミング及び、担当スタッフの変更を行う等で、確実に口腔ケアを行う様、留意しています。訪問歯科との連携も行い、口腔内の健康が維持できるよう支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	過去の排泄パターンを記録する事で、時間管理を行い、適切なタイミングでの排泄が行えるようにスタッフが声掛けを行っています。また、排泄前の挙動・特徴的な動きをスタッフ間で実施し、利用者の方の尊厳を損なわないような誘導を行い、自立に向けた支援を実施しています。	排泄記録や利用者個々の仕草などからパターンを判断し、声掛けをしてトイレでの排泄を支援しています。水分摂取や食材に配慮し、それでも無理な場合には医師や看護師の助言で薬も使用しながら、体調に気をつけ、排泄支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給・食事量の記録同様、排泄回数等についても記録を行い、便秘等の発生を事前に察知し、対応が可能な態勢を取っています。初期段階では、水分量を増やす・食事に繊維質も多い物を提供する事を行い、改善されない場合には提携医療施設から支援を受け、医薬品によってコントロールしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者の希望を尊重し、気持ち良く入浴して頂けるよう努めています。お一人入る毎に浴槽を清掃し衛生面にも留意しています。月間での入浴回数を記録し、偏りが発生しないように計画を立てての入浴の支援を行っております。足腰の弱い方にも入って頂けるよう、機械浴での支援も行っております。	最低でも週2回は入浴するようにしています。ゆっくり入りたい人、一人で入りたい人など、個々に合わせた支援をしています。季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯にし、一人ずつ浴槽を清掃して湯を交換しています。入浴を好まない場合はどうしてなのか職員で話し合い、その人に合った対応をしています。機械浴の設備があります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者ご本人の生活習慣を尊重し、それぞれに合わせて起床等して頂いております。日中の入居者のご様子を観察し、体調等の把握に努め、必要と思われた際には居室での休養・仮眠の誘導・提案を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各利用者の方の服用されている医薬品の内容を把握する為、処方箋の管理を行い、スタッフ全員が内容を把握出来るよう環境整備を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物畳みや、簡単な家事作業をして頂く機会を作ったり、ご希望に沿って歌・体操・室内で行なえるレクリエーションの実施や芋掘り、水族館見学等の外出及びご家族も一緒に楽しめるイベントも行い、バリエーションを持った支援を提供しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候・気温を考慮し、条件のいい日には近隣の公園等への散歩等にお誘いしています。また、桜や紅葉の季節には普段は訪れるのが難しい公園等へドライブにお連れする等、変化の有る外出の機を作る様に努めています。また、通常の外出が困難な利用者様にはご家族のご協力を得て、可能な形での外出を考え、実施しています。	利用者の状態や気候を考慮しながら散歩に出かけたり、外気浴をしています。希望があれば近隣の店への買い物に出掛けています。そのほかに、初詣、花見、水族館へ行くなど、外の風景や空気に触れることが出来るように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自身で金銭管理が可能な利用者の方にはご希望に合わせて現金の所持をして頂いています。自己管理が困難な方については、スタッフが立ち会いの上で現金の使用を行って頂き、レシートを保管しご家族に確認を頂いています。また、ご家族の了承の上でスタッフ同行で買い物に出掛けて頂き、ご自身の購入したいものを購入して頂く機会を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	施設の電話を利用してご家族とお話をする機会の提供や利用者の皆さまが書かれた手紙をスタッフが代理投函する等、利用者の方と大切な方々のコミュニケーションが容易に行えるように支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日実施する、施設内の清掃で清潔な環境の維持を行おう事は元より、季節・天候に合わせて室温管理・直接照明だけではなく間接照明を多用した適度な明るさの照明の活用、クリスマスツリー等の季節感があるディスプレイの展示、食事時にはテレビを消して、季節感のあるBGMで食事を摂って頂く等の工夫を行っています。	建物内外はバリアフリーで広々とした瀟洒な個人の住宅仕様となっています。他の利用者と少し離れてゆっくりとくつろげるスペースがあります。入口には季節の花が植えられ、建物内にも季節感を感じられるような装飾を心掛けています。席の配置にも考慮し、利用者が快適に過ごすことが出来るように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースでのご様子をスタッフが細かく観察し、利用者の皆様が適度なパーソナルスペースを確保し快適な生活が行えるよう注意しています。また、食席についても利用者の皆様のご様子を考慮し、適宜席替えを行い、共有スペースで快適に過ごせるよう意識して活動しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはタンス、鏡、ご家族の写真、思い出の品等、これまで大切にされていたものを持ちこまれ、その人らしく、また安心できる空間づくりを行っております。	利用者は、家族の写真、家具、愛用の化粧品、新聞や書籍など、馴染みの品々や好みのものに囲まれて暮らしています。利用者の状態により、危険な品物は置かないよう安全にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者に危険が及ばないように手の届く所には刃物等の危険な物は置かないようにしています。動線となる箇所に障害物がないよう留意し、安全で制限のない生活が送れるよう工夫しております。		

事業所名	ラ・プラージュ湘南
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設当初に、ラ・プラージュ湘南としての具体的な支援理念を作成し、職員の目の届くように可視化しています。新しい職員も増え、共有できていないことも考えられるので、現状にあった理念を考え、共有していきたいです。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の一員として回覧板をまわしたりしています。日常的に散歩をしているので、近所の方に出会った際は挨拶をかわしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症があっても地域で生活できるという事を知っていただくために、散歩や買い物を日常的に行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度は奇数月に運営推進会議を行っています。運営推進委員からのアドバイスを実際にケアに活かしています。また、地区の行事などの情報交換の場としても活用しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2ヶ月に一度、藤沢市のグループホーム連絡会を行っています。行政側にも参加していただき、連絡事項の確認や、他事業所の取り組み等を参考にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束にあたる、具体的な行為などをミーティング等で共有しています。玄関の施錠については、7月相模原の事件をうけて、ご家族からも戸締りをしたほうがいいのではと意見をいただき戸締りをさせていただいております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修や、ミーティング等で虐待について学ぶ機会をつくっています。声掛け等、細かなところから日常的に気をつける組織風土をつくっていきたいです。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持てていなかったもので、機会をつくっていききたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約または改定等の際は、利用者やご家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から入居者やご家族の希望・要望を聴くことを心がけています。ご家族の面会時などに積極的にコミュニケーションをはかり、運営に反映できるように努力しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のフロアミーティングや、個人面談の際に意見や提案を聞く機会を設けています。その際に十分に検討して合意形成をはかってから、運営に反映するようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	常勤に関しては、能力や実績を把握できるように人事考課制度が見直されています。また、年に1回職員の意向調査をおこない、各自が向上心を持って働けるように職場環境を整備しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内では個々の専門性を高める為の研修が定期的に行われています。事業所内でも、認知症やリスクマネジメントの研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内では、各事業所の管理者を対象に宿泊研修を行っています。魅力ある事業所作りを目指した、勉強会を行い交流を持つことで、横のつながりを大事にしています。また、藤沢市のグループホーム連絡会にて各事業所の悩み等を共有しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご本人の様子を確認し、ご家族から困っていること、不安なこと、要望を確認しています。環境の変化にもスムーズに対応できるよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が抱えている、悩みや不安に耳を傾け、ご家族の思いに寄り添えるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の悩み、不安、またご本人の様子から、ニーズを導き出し、ご本人がホームでの生活に困らないよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様一人一人の能力、可能性を見極め、生活の中で役割を持っていただけるように工夫しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が、いつでもホームに出入りしやすいような空気作りをしています。また、職員だけでは対応できない事はご家族の協力も得ながら入居者様の生活を支えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様一人一人の状態を見極めたうえで、大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援しています。ご家族との旅行や、お友達との外出など制限せず行えるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の個性を尊重し、孤立せずに楽しく過ごせるような雰囲気づくりに配慮し、入居者同士の生活歴に着目しながら、お互いが支えあえるよう、声かけ等で柔軟な関係作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	これまでの関わりによって、ご家族と職員とが顔馴染みとなり、ホームの外でも挨拶や共通のお話ができる関係が築けています。歌のボランティア等にもホームにお越しいただく等、利用終了後も良い関係が保たれています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中から、思いや意向を汲み取っています。困難な場合は表情の変化、身振り手振り等の仕草から推し量っています。ターミナル期に入った方などは、これまでの生活からその方が大事にしてきたものや時間を共有しケアにつなげています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に事前面接を行いご家族から伺っています。入居後もケアに困った時は、ご家族から馴染みの物等を聞きケアにつなげています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	過ごし方や心身状態については、ミーティング等で職員一人一人からみた多角的な視点を持ち寄り、状態を共有するように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフ全員でモニタリングを行っております。ご本人の想いやニーズをくみ取り、更にご家族の意向や医師・看護師等の専門的な意見も介護計画に取り入れております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様一人ひとりにつき、24時間スケールで記録しています。記録を通して、課題が見つかるケースも多く、介護計画の見直しにも役立てております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様やご家族の状況、その時々生まれるニーズに対応出来るよう、入居者様に必要な支援をケアプランに設定し、実践しております。今後もサービス多機能化に努めて参ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者様の一人ひとりの、状態やニーズを把握して、ホームの近所にある公園やドラッグストアに出掛けたりしています。また、お芋掘りやお祭りなどにも参加し、地域との交流を図っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者が体調不良の際は、提携している訪問看護ステーション及び主治医に連絡し、指示を仰ぎます。24時間往診して頂ける体制になっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一度の訪問看護の際や、入居者様に状況変化があった際に、状況を伝え、支援の相談をしています。状態にあった指示・助言のもと支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入退院された場合、病院の医師・看護師等と、生活状況や支援方法等、情報共有に努めております。関係作りの観点では、小林内科、クローバークリニック、海の診療所、イーケアーズ訪問看護ステーションと良好な関係が築けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や、終末期と思われる入居者様には、早期にご本人、ご家族の意向を伺い、主治医、訪問看護師を交え、今後の生活のあり方について話し合っております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルを作成し、職員に対しても緊急時の対応について、指導しております。入居者様の状況に応じた都度対応をミーティング等で確認しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消火訓練や、消防設備の使用方法等を取り入れた避難訓練を行っております。法人全体の避難訓練も、年2～3回実施しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様のお一人ずつこれまでの過ごされてきた環境や生活、性格を深く考慮し、目線を合わせ、心から寄り添い優しい声かけに努めています。外部の人権研修への参加、定期的に人権の研修も行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	意思表示の出来る方に対しては日常生活の中での希望を伺い、心配や不安のないよう生活の支援に心がけています。意思表示の難しい入居者様には、ご本人の表情・動作から思いを汲み取る様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員で話し合い、年齢、体調もその日により異なります。お一人ずつに合う一日を過ごして頂くように支援させて頂いております。利用者様優先の支援に努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴後の爪切り、保湿に注意して、整容身だしなみに気を付けております。外出時等には、入居者様と一緒に洋服等を選び、季節に応じた装いの準備をして、おしゃれを楽しんで頂いております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛りつけの色どりや、食材を花型にする等、目でも味でも楽しめるよう、心をこめて調理しており、入居者様にも喜ばれております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量のチェック表を用いて、各々の状態を把握しております。ミキサー食・トロミ・刻み食等の対応、水分補給にOS-1飲用、便秘解消のため、野菜ジュースを作って提供したりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは1日3回朝・昼・夕と実施しております。また、訪問歯科医と連絡を密にし、常に健康な口腔環境の維持に努めて参ります。ご本人様の要望にもご家族様相談の上対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを見極めトイレ介助を行っております。またオムツ対応の方も日中はトイレで、夜間はPトイレを使用し、出来る限りトイレでの排泄が続けていけるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事の内容や量、水分量、また適度な運動、そして個々に合った便秘薬の調整と多方面からの対応を行っています。特に一日の水分摂取量は、水分表をつけ状態の把握に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	自然に順番が出来ていますが、その日その日の体調の確認と、ご本人様のご希望に応じて支援しています。また、ぬるめ、熱めなど、お好みの湯温や入浴時間を、健康に配慮しながら提供しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その日の体調やご希望に応じてベッドでの休息や仮眠をとって頂いていますが、夜間の睡眠へ影響がないよう、お声掛けさせて頂いています。夜間はお好みの暗さや室温など配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋をファイリングし、服薬内容を変更時を含め、職員間で周知、共有しています。ご利用者様に症状の変化等あれば、医師・看護師に連絡します。また服薬時は複数人で確認し、誤薬・服用忘れないよう注意し支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事が得意な方にはお声掛けしお手伝いして頂いたり、TVが好きな方には録画して映画等ご覧になれるようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気がいい日には積極的に声掛けし外出するようにしています。気分が乗らない方には玄関先での日光浴などしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持していないことで、不安を感じる方もいらっしゃるのでは、ご家族に協力を得ながら、お財布を持っていたら、不安が少なくなるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様から希望がある時施設電話を利用し、自由にご家族に電話をかけることができるようにしています。手紙のやり取りが継続的にできるように、投函のお手伝いもしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有部において、日々の生活を知れるラプラージュ新聞を掲載したり花、絵を飾っています。季節の行事、七夕飾り、ひな人形、クリスマスツリーを出しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間でも個々の時間を持てたり、また気の合う同士がお話をしたり楽しく過ごせるように席を配置するなどして環境を整えています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内にはご自宅で使用していた慣れ親しんだ物を飾るなど、ご家族と相談しながら模様替えや入れ替え等を行って、過ごしやすい空間にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	それぞれの方の興味や行動に合わせ、出来ることを増やしたり、生活上困らない様に環境を整えてスムーズに生活出来るようにしています。		

平成28年度

目標達成計画

事業所名 ラ・プラーージュ湘南

作成日： 平成29年 4月27日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所理念がすべての職員に浸透していない。	事業所理念をすべての職員で共有し、方向性を統一する。	職員面談を行い、スタッフの考えや思いを吸い上げ、現状にあった理念を作成し共有化する。	2ヶ月
2	49	昔ながらの伝統や文化を大切にしたい。アクティビティをさらに充実させたい。	日本ならではの伝統や文化を大切にしたい。アクティビティの充実を図る。	事業所内で委員会を作成し、そのなかで提案・企画を行い、充実を図る。	4ヶ月
3	13	職員の専門性の向上したい	介護の質の向上を目指した研修の機会を増やす。	外部での研修の機会を増やし、学んだことを事業所にフィードバックするシステムを構築していく。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月